行動計量学会報

日本行動計量学会（理事長 水野欽司）
事務局：〒152 目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学工学部繁桝研究室

教養改組と行動計量学

田栗正章

「大学の教養部改組とかけて，行動計量学の研究と解く」．その心は，「？」．

現在教養部を持つ全国の国立大学では，教養部改組の動きがドラスティックに進行しつつある．我々の大学でも，昨年末から時には実りある，しかししばしば不毛な議論が連日繰り返されている．文部省の方針として，教養部単独での改組は認めないとの噂なので，どこかの学部と“つきまぜて”考えねばならない訳であるが，この際重要なことは魅惑的なお題目を唱えることである．そして究極の殺し文句は，“学際的研究”である．勿論「環境」，「情報」，「国際」はキーワードであるが，「人間」とか「総合」とかいう語で味つけすることも忘れてはならない．随分と不見識な言い方で恐縮だが，改組に携わっている人間の果して何人が，“学際的研究”について真剣に思い悩み，自分なりの考えを構築しようと努力しているのだろうか．私は理学部の立場から教養部や文学部の人達と話し合っているが，新学部の情報関連学科に対する考え方１つにしても，各自の立場により様々な見方がある事を痛感し，茫然自失となってしまうことも度々である．

話は変わるが，本学会の和文誌の編集を通して考えさせられた事の１つは，学際的研究とは一体“何もの”なのかということである．今までの会報を読み返してみると，初期の頃の熱っぽい議論が減少し，最近では各自の専門領域をふまえて考えた学際的研究といった論調になっているように思える．これは多くの会員の方々が，年月をかけて，地道に誠実に議論を行ってきた成果であると考えたい．そして未だはっきりとはしないが，“学際的研究とはこんなものなのだろうか”という明りが見えてきたように思える．しかもそれが地に足のついた，自然な形で考えられるようになったことを，私は大変大切にしたいと思っている．

様々な分野の研究者が，その専門の殻から踏み出し，他の分野の研究対象を自分の観点，手法を適用して解析し，得られた結果を総合的視点から考えることが，学際的研究には要求されよう．しかしこれを実り多きものとするためには，参画する研究者がそれぞれの専門分野で優れた研究を行っていることが基本であろう．行動計量の学際的研究におけるデータ解析では，基礎から着実に積み上げる努力を怠ってはならない．また解明しようとする研究対象を誠実にモデル化し，それに適した品格ある解析手法を，研究者自らが考案しなければならないと考える．

最初の謎かけに対する私の心は，「どちらも学際的研究を目指すが，果して現在はどこまで？」といったところか．今後の，充実した学際的研究に期待したい．

(たぐり まさあき，日本行動計量学会理事，和文誌編集幹事長)

和文誌編集幹事会からのお知らせ

「行動計量学」の発行方法変更について: 第 18 巻第 2 号の編集後記でもお知らせしましたが，現在年度単位になっている雑誌の発行を，次号から歴年単位とすることが理事会で決定されました．このための移行措置として，1991 年 9 月発行の号と 1992 年 3 月発行の号とを合併し，新しい第 19 巻第 1 号として，1992 年 3 月の発行とすることになりました．第 19 巻第号は 1992 年 9 月の発行とし，以降毎年 3 月に第 1 号を，9 月に第 2 号を発行する予定です．なお上記の措置による混乱を避けるため，今日まで続けていた通巻の番号は，そのまま残すことにしました．すなわち第 18 巻第 2 号 (1991 年 3 月) が通巻 35 号，新しい第 19 巻第 1 号 (1992 年 3 月) が通巻 36 号となります．

現在のところ雑誌の発行が大幅に遅れており，ご迷惑をおかけしていますが，今後この遅れを取り戻す努力をしていくつもりです．論文の投稿など，会員の皆様のご協力をお願い致します．

欧文誌編集幹事会からのお知らせ

1. Behaviormetrika の巻号表記の変更について: Behaviormetrika は 1974 年の発刊以来，通巻番号 (No.) で表示してきましたが，今回発行の号より，巻・号 (Vol. および No.) 表示に変更することになりました．1974 年の第 1 号を Vol.1 としますと，1979 年までは年 1 回の発行であったため，今回発行の通巻 31 号は Vol.19,No.1 となります．各年毎で発行順に No.1,No.2 とします．なお当分の間，通巻番号も合わせて表示致します．

2. 論文投稿規定の一部変更について: これまでは，論文投稿の条件として執筆者全員が会員であることが要求されていましたが，投稿規定が変更となり執筆者の内に一人でも会員がいれば投稿可能となりました．また海外在住者については，別に定める掲載料を徴収するという条件で，会員でなくても投稿可能となりました．

会議記録

第 1 回理事会
日時:平成 4 年 1 月 17 日 (金) 午後 6 時-8 時
場所:大学入試センター
出席者:水野理事長他 11 名

1. 前回議事録の確認: 出席者のうち，杉山広報担当理事の広報担当の部分を削除のうえ承認された．

2. 会員の移動について: 繁桝理事より報告があり，承認された．

3. 刊行雑誌の表記について: 和文誌については，1991 年度の 1 号 (9 月)，2 号 (92 年 3 月) の合併号を 92 年 3 月に 19 巻第 1 号として刊行し，以降毎年 3 月に 1 号，9 月に 2 号を刊行すること，欧文誌については，1992 年 1 月に刊行する号から 19 巻 1 号として刊行し，以下毎年 1 月に 1 号，7 月に 2 号を発行することが承認された．また，和文誌，欧文誌ともに当分の間，通算号数を併記することが承認された．

4. 第 20 回大会について: 第 20 回大会の準備の進行状況等について繁桝理事より報告があった．また，記念講演会を開催することが承認された．

5. 各種委員会報告

運営委員会: 岩坪委員長より，小グループ研究会の活動を再開し募集することおよび，シンポジウムの企画の進行状況等について報告があった．

和文誌編集幹事会: 田栗編集幹事長より，編集状況について説明があった．

欧文誌編集幹事会: 村上編集幹事長より，編集状況について説明があった．

学会賞選考委員会: 宮原委員長より，選考委員が決定したことの報告があった．

刊行物委員会: 林委員長に代り，柳井理事より刊行物の計画および進行状況について報告があった．

6. 今後の活動方針について: 各理事宛に，入会申込書，賛助会員申込書を事務局より送付することが承認された．

運営委員会 (平成3年度第4回)
日時:平成4年1月27日(月)
場所:大学入試センター
出席者:岩坪委員長他8名

1. 2月22日(土)統計数理研究所講堂において，東京大学の松原望氏を中心とするシンポジウムを開催することになり，具体的な折衝は岩坪委員長が当たることとした．

2. 今年の行動計量学会大会では，20周年記念行事が行なわれるが，運営委員会としても，理事会と連絡を取りつつ，企画に参加していくこととなった．

3. 林委員が，シンポジウム「ストレス」を計画することになった．本年6月上旬，講演者3～4人の予定．米田委員より「言語」関係は，来年1月までには開きたいとの発言があった．

4. 地方に在住している講演者の旅費等を調達するため，従来の講習会を再開してはとの意見が出され，柳原，柏木両委員が検討することとなった．

5. 市川(雅)委員が，杉山委員に代って会報担当係に就任した．

6. 次回会合を，3月23日(月)大学入試センターで行なうことを決めた．

協賛するシンポジウム等のお知らせ

1. 第35回自動制御連合講演会
日時:1992年10月28日(水)-30日(金)
場所:岡山市学南町1丁目3番2号岡山カルチャーホテル(予定)
連絡先:大阪大学工学部一般電気工学講座辻毅一郎

2. 計測自動制御学会関西支部シンポジウム「モーションコントロールとセンシングにおける最近の話題」
日時:1992年9月24日(木),25日(金)
会場:大阪市北区中崎西2-4-12 三田出版会大会議室(梅田センタービル31階) (電話:06-373-8800)
問い合せ先:大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学工学部電気工学科 建部渉(電話:06-605-2687,FAX 06-605-2769)

3. International Joint Conference on Neural Networks (IJCN'93-Nagoya)
日時:1993年10月25-29
連絡先:名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部 福田敏男 (電話:52-781-5111(内線4478), FAX: 52-781-9243)

小グループ研究会の発足について

前号(55号)でご案内した小グループ研究会に申し込み，承認された4グループが発足いたしましたので紹介いたします．

(1) 視覚数理モデル小グループ研究会(参加人数約20名) 人間の視知覚計量のモデル化，眼球運動など脳の高次機能の評価法とそのモデル化，人間の記憶に関する計量モデル．
連絡先: (北海道地区) 064 札幌市中央区南26条西11丁目1番1号北海学園大学工学部

電子情報工学科山ノ井高洋 TEL:(011)841-1161(内線 866) FAX:(011)551-2951 (関東地区) 214 川崎市多摩区東三田 3 丁目 10 番 1 号松下電器産業 (株) 情報通信東京研究所基礎研究部基礎研究室小山隆正 TEL:(044)934-2863 FAX:(044)934-2862 e-mail:oyama@trl.mei.co.jp

(2) 行動科学研究会参加資格: 広義の「行動科学」に興味を持つ人. 性別・年齢・職業など, 属性は問わない. 時間: 土曜日午後 (月に 1 ～ 2 回程度). 事務局:980 仙台市青葉区川内 東北大学文学部行動科学研究室海野道郎, 佐藤嘉倫, 小松洋 TEL:022-222-1800(内線 2671) FAX:022-221-5207(文学部). 備考: 参加は随時可能だが, 連絡名簿など作成の都合上, 第 1 回会合に先だって事務局にご連絡ください.

(3) 調査方法に関する研究会研究目的: 年々悪化する調査環境の下で, 調査方法の改善, 新調査方法の開発などを通じて, 社会調査の質の確保をはかる. 研究会メンバー: 各種調査機関所属の学会員, 調査法に関心をもつ学会員. 例会: 原則として毎月 1 回, 定例の研究会を開催し, まず現状分析からはじめる.

(4) マルチウェイ・データ解析研究会代表者: 吉澤正 (筑波大学大学院経営システム科学専攻) 10 ～ 15 名 (とくに人数は制限しない) 連絡先: 事務局 岩坪秀一 153 東京都目黒区駒場 2-19-23 大学入試センター研究開発部 TEL:03-3468-3311 マルチウェイ・データの例を出来るだけ多く収集し, これから実際の知見を引き出すマルチウェイ・データ解析法を開発する. そのために, 現にこのようなデータと取り組んでいる各分野の研究者との緊密な研究連絡をはかる. ソフトウェア (将来的にはパソコン用のもの) を開発する. マルチウェイ・データ解析は複雑になるので, とくに編集, ディスプレイの工夫をして, 結果の解釈がしやすい使い勝手のいいものを目指す. マルチウェイ・データ解析法のための新しい数学的概念を追求する. 当面は, 月 1 回のわりで研究会を持ちつつ, 2 年間を一区切りにして研究活動を続け, 成果の達成を目ざす.

会員の移動 (1992 年 1,2 月分)

入会: 坂元昂, 横山詔一, 松本正生, 吉村由佳, 木村敏明, 青木賢一, 越智啓太, 狩野裕, 天坂格郎, 水野康文
退会: 皆川順, 上田一雄, 高杉成一

会員による著書一覧の訂正

前号 (55 号) の会員による著書一覧 (2) の 1991 年 10 月の分に誤りがありましたので, 訂正いたします.

誤	正
澤田久義	満田久義
足立清史	安立清史

会報の担当の変更について

会報の担当者が代りました. 会員の声, 会員の著書, 会報への御意見等は, 下記宛てにお願いいたします.

114 北区西ケ原 4-51-21
東京外国語大学外国語学部
市川雅教